

はまるで霜の刃を立てたように見え、剣の山とはこのようないものかと、思わずにはいられません。春の暖かさで、崖から下がるつららが折れる音が山々にこだまし、ホロレブシベから流れ落ちる水が氷の裂け目に落ちて、ほら貝を吹くような音を絶えず立てています。

ホシノミンダルマイという両岸から突き出ている2つの岩は、降り積もった雪によつて連なり、遠くから見たら白い虹が現れたのかと思うほどで、近くで見ると石橋のようにも見えました。また、テツシオマナイの滝は凍り付いて、玉で飾つたすだれのように見えるなど、2キロほど続くこの辺りの景色は、夏とは違つた美しさがあつて素晴らしいと

思いました。

春志内に到着し、ここからは1キロほど断崖を登り、小川のベンゲアソナイを過ぎてトドマツの山に登りましたが、かなり厳しく辛い道が2キロほど続きました。さらに川沿いに1キロ余りで、ルチシノボリという峠に出ました。木々の間から東の方を眺めると、旭岳、チクベツ岳、ベベツ、ビエイ岳といつた山々が連なり、その間の大広原は雪が積もつて銀盤のように見渡せました。

ここから小さな沢を4、5カ所渡り、およそ4キロでランネナイ、ヨウコシナイを過ぎ、幅7メートルほどのエヌブトの川端で野宿をしました。



旭岳

2,291mと北海道で最も高く、日本で一番長い間雪を楽しめる山。



バラ・モイ

アイヌ語で「バラ（広い）モイ（湾）」という意味。神居古潭のひとつで、船着場として使われていた。